

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年11月14日
【四半期会計期間】	第46期第2四半期（自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日）
【会社名】	株式会社クレオ
【英訳名】	CREO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 柿崎 淳一
【本店の所在の場所】	東京都品川区東品川四丁目10番27号
【電話番号】	03(5783)3530(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 雨田 高志
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東品川四丁目10番27号
【電話番号】	03(5783)3530(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 雨田 高志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第2四半期連結 累計期間	第46期 第2四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成30年4月1日 至平成30年9月30日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日
売上高 (百万円)	5,582	6,181	12,268
経常利益 (百万円)	58	184	457
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	20	129	305
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	22	133	308
純資産額 (百万円)	5,029	5,323	5,315
総資産額 (百万円)	7,102	7,573	7,525
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	2.51	15.64	36.79
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.4	69.8	70.2
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	333	623	429
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	33	97	109
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	156	130	165
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	3,471	3,879	3,483

回次	第45期 第2四半期連結 会計期間	第46期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日	自平成30年7月1日 至平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	17.92	15.85

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ)は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社と事業を営む連結子会社4社およびその他の関係会社1社により構成されており、事業は製品・サービス別にソリューションサービス事業、受託開発事業、西日本事業、システム運用・サービス事業、サポートサービス事業に区分しております。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間は、当社が属するICTサービス市場においては、1)ICTによる各種社会インフラの高度化、2)幅広い産業でのIoT、ビッグデータ、AI、ロボット技術などへの注目、3)働き方改革の取り組みにおけるICTの活用、などの要因を背景に、ICTサービスに対するニーズが引き続き拡大傾向にあるものと認識しております。

このような状況の中、当社グループは平成29年度を初年度とする中期経営計画を策定し、最終年度平成31年度に過去最高益8億80百万円を上回る営業利益10億円の目標を設定しております。

この目標の達成に向け、特にソリューションサービス事業を成長事業と位置付け、新規製品・サービスの開発強化、営業・マーケティング戦略の転換、各種費用の最適化などに取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの状況は、売上高はサポートサービス事業を除くすべての事業が前期比で10%を上回る成長を果たしたことにより、前期比で5億98百万円増加しました。営業利益は主にソリューションサービス事業、システム運用・サービス事業の増益が寄与したことなどにより、前期比で1億23百万円の増加となりました。経常利益は営業利益の増加に伴い前期比で1億26百万円増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益は前期比で1億8百万円の増加となりました。

以上の結果、売上高61億81百万円（前期比10.7%増）、営業利益1億52百万円（前期比411.1%増）、経常利益1億84百万円（前期比215.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億29百万円（前期比522.2%増）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

・ソリューションサービス事業

（人事給与・会計ソリューション「ZeeM」をはじめとするソリューションサービスを提供）

売上高は複数製品・サービスを組み合わせ提案する複合ソリューションの受注などにより前期比で1億77百万円増加いたしました。営業利益は収益性の高い製品ライセンス売上高の増加や、原価削減の取組みの効果などにより前期比で69百万円増加いたしました。

その結果、売上高は14億91百万円（前期比13.5%増）、営業利益1億83百万円（前期比61.4%増）となりました。

・受託開発事業

（富士通グループ、アマノ株式会社をはじめとする大手企業に対して、システム受託開発サービスを提供）

前期に生じた主要既存顧客からの案件失注などの影響が解消されたことにより、売上高は前期比で1億16百万円増加、営業利益は前期比で16百万円増加いたしました。

その結果、売上高は6億54百万円（前期比21.6%増）、営業利益1億14百万円（前期比17.0%増）となりました。

・西日本事業

（名古屋以西の顧客に対して自社製品・サービスの販売および受託開発サービスを提供）

同地域の顧客に対する「ZeeM」をはじめとするソリューションサービスの販売が増加したことなどにより、売上高は前期比で85百万円増加、営業利益は前期比で14百万円増加いたしました。

その結果、売上高は6億65百万円（前期比14.7%増）、営業利益56百万円（前期比35.5%増）となりました。

・システム運用・サービス事業

（主に国内大手ポータルサイト事業者に対してシステム開発・保守・運用サービスを提供）

新規顧客からの大型案件受注や既存顧客からの受注単価上昇などにより、売上高は前期比で1億81百万円増加、営業利益は前期比で35百万円増加いたしました。

その結果、売上高は11億69百万円（前期比18.4%増）、営業利益78百万円（前期比83.1%増）となりました。

・サポートサービス事業

（ヘルプデスク、テクニカルサポートを中心としたサポート&サービスおよび、社会調査、市場調査などのコールセンターサービスを提供）

第1四半期会計期間に調査サービスの既存顧客からの受注が減少したことなどにより、売上高は前期比で37百万円増加、営業利益は前期比で0百万円増加に留まりました。

その結果、売上高は22億円（前期比1.8%増）、営業利益99百万円（前期比0.5%増）となりました。

財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、69百万円の増加となりました。

これは主として、売掛金の減少およびたな卸資産の増加によるものです。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、21百万円の減少となりました。

これは主としてのれんの償却による減少によるものです。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、44百万円の増加となりました。

これは主として未払金の減少、前受金の増加によるものです。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、3百万円の減少となりました。

これは主として、長期未払金の減少によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、7百万円の増加となりました。

これは主として配当金の支払いによる減少、営業利益の増加に伴う親会社株主に帰属する四半期純利益の増加によるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益の増加、自己株式の取得による支出の減少により、前連結会計年度末と比較して3億95百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には38億79百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は6億23百万円（前年同四半期は3億33百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益1億84百万円、売上債権の減少5億43百万円、たな卸資産の増加2億9百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は97百万円（前年同四半期は33百万円の支出）となりました。主な要因は、無形固定資産の取得による支出94百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億30百万円（前年同四半期は1億56百万円の支出）となりました。主な要因は、配当金の支払額1億24百万円によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当社グループは平成30年3月期を初年度とする3か年中期経営計画に沿って経営を行っております。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

四半期ごとの経営成績に重要な影響を与える要因として、収益の季節変動性が挙げられます。以下の事業特性上、特に第4四半期会計期間に営業利益計上が偏重する傾向があります。

- ・ソリューションサービス事業において、人事給与、会計ソリューションが顧客企業の新年度からのシステム切り替えに備えて年度末に導入が集中する傾向があること
 - ・受託開発事業において、主要顧客向けのシステム開発等の納期が年度末に集中する傾向があること
- これらの状況を踏まえて、季節要因の影響が小さく通年の需要が見込まれるソリューションの販売を拡大することによって、収益の季節変動性を軽減することに努めてまいります。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資本の財源及び資金の流動性につきましては、事業運営上必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

運転資金需要のうち主なものは、人件費のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資、子会社株式の取得等によるものであります。

運転資金は原則として営業活動によるキャッシュ・フローによって賄われておりますが、状況に応じて直接金融並びに間接金融を利用していく方針であります。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,650,369	8,650,369	東京証券取引所 (JASDAQ スタンダード市場)	単元株式数 100株
計	8,650,369	8,650,369	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年7月1日 ~平成30年9月30日	-	8,650,369	-	3,149	-	-

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
アマノ株式会社	神奈川県横浜市港北区大豆戸町275	2,645	31.87
ヤフー株式会社	東京都千代田区紀尾井町1丁目3	1,100	13.25
資産管理サービス信託銀行株式 会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12晴海ア 일랜드トリトンスクエアオフィスタ ワーZ棟	260	3.13
水元 公仁	東京都新宿区	200	2.41
クレオ従業員持株会	東京都品川区東品川4丁目10-27住 友不動産品川ビル	184	2.22
江本 英雄	兵庫県芦屋市	163	1.97
外池 栄一郎	東京都千代田区	142	1.72
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	140	1.69
三木 美枝	福島県いわき市	130	1.57
和田 正次	東京都町田市	116	1.40
計	-	5,082	61.24

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 351,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,292,800	82,928	-
単元未満株式	普通株式 6,569	-	-
発行済株式総数	8,650,369	-	-
総株主の議決権	-	82,928	-

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社クレオ	東京都品川区東品川四丁目 10番27号	351,000	-	351,000	4.06
計	-	351,000	-	351,000	4.06

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ナカチによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,483	3,879
受取手形及び売掛金	2,514	1,971
商品及び製品	4	1
仕掛品	235	448
その他	206	213
流動資産合計	6,445	6,514
固定資産		
有形固定資産	328	321
無形固定資産		
のれん	93	74
特許権	1	1
ソフトウェア	272	304
ソフトウェア仮勘定	95	60
その他	0	0
無形固定資産合計	463	441
投資その他の資産		
投資有価証券	3	2
その他	308	316
貸倒引当金	23	23
投資その他の資産合計	288	295
固定資産合計	1,079	1,058
資産合計	7,525	7,573
負債の部		
流動負債		
買掛金	518	509
未払金	324	283
未払法人税等	119	64
前受金	184	365
賞与引当金	485	510
役員賞与引当金	5	-
その他	430	377
流動負債合計	2,067	2,112
固定負債		
未払役員退職慰労金	26	26
資産除去債務	63	68
その他	52	43
固定負債合計	142	138
負債合計	2,210	2,250
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	562	562
利益剰余金	1,718	1,723
自己株式	148	148
株主資本合計	5,281	5,286
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益累計額合計	0	0
非支配株主持分	33	36
純資産合計	5,315	5,323
負債純資産合計	7,525	7,573

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	5,582	6,181
売上原価	4,504	4,945
売上総利益	1,077	1,235
販売費及び一般管理費	1,047	1,082
営業利益	29	152
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	0	0
助成金収入	20	25
その他	8	5
営業外収益合計	30	32
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	1	0
営業外費用合計	1	1
経常利益	58	184
特別利益		
投資有価証券売却益	2	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
その他	2	-
特別損失合計	2	-
税金等調整前四半期純利益	58	184
法人税、住民税及び事業税	33	50
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	34	50
四半期純利益	23	133
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	20	129

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	23	133
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	0
その他の包括利益合計	1	0
四半期包括利益	22	133
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20	129
非支配株主に係る四半期包括利益	1	4

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	58	184
減価償却費	136	121
のれん償却額	19	19
賞与引当金の増減額(は減少)	74	25
役員賞与引当金の増減額(は減少)	4	5
受取利息及び受取配当金	1	0
支払利息	0	0
投資有価証券売却損益(は益)	2	-
投資有価証券評価損益(は益)	-	0
売上債権の増減額(は増加)	418	543
たな卸資産の増減額(は増加)	256	209
仕入債務の増減額(は減少)	70	8
未払金の増減額(は減少)	43	36
未払消費税等の増減額(は減少)	114	47
その他	170	125
小計	385	712
利息及び配当金の受取額	1	0
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	52	89
営業活動によるキャッシュ・フロー	333	623
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	4	8
無形固定資産の取得による支出	60	94
差入保証金の差入による支出	16	10
投資有価証券の売却による収入	5	-
差入保証金の回収による収入	43	0
貸付けによる支出	-	0
貸付金の回収による収入	-	15
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	33	97
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	42	0
配当金の支払額	108	124
非支配株主への配当金の支払額	1	1
リース債務の返済による支出	4	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	156	130
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	143	395
現金及び現金同等物の期首残高	3,328	3,483
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,471	3,879

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	- 百万円	10百万円

2 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
当座貸越極度額の総額	500百万円	500百万円
借入金実行残高	-	-
差引	500	500

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
販売促進費	4百万円	3百万円
広告宣伝費	29	42
給与手当及び賞与	376	361
退職給付費用	14	14
賞与引当金繰入額	63	65

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金勘定	3,471百万円	3,879百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	3,471	3,879

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	109	13	平成29年3月31日	平成29年6月22日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月11日 取締役会	普通株式	124	15	平成30年3月31日	平成30年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ソリューション サービス 事業	受託開発事業	西日本事業	システム運用 ・サービス事業	サポート サービス事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	1,313	538	580	987	2,162	5,582
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16	-	-	0	92	109
計	1,330	538	580	987	2,254	5,691
セグメント利益	113	98	41	43	98	394

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	394
全社費用及び利益(注)	364
四半期連結損益計算書の営業利益	29

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ソリューション サービス 事業	受託開発事業	西日本事業	システム運用 ・サービス事業	サポート サービス事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	1,491	654	665	1,169	2,200	6,181
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	-	-	-	76	96
計	1,510	654	665	1,169	2,276	6,277
セグメント利益	183	114	56	78	99	532

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	532
全社費用及び利益(注)	379
四半期連結損益計算書の営業利益	152

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益	2円51銭	15円64銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	20	129
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	20	129
普通株式の期中平均株式数 (千株)	8,318	8,299

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月14日

株式会社クレオ
取締役会 御中

監査法人ナカチ

代表社員
業務執行社員 公認会計士 吉永 康樹 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 高村 俊行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クレオの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クレオ及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。